

Energy efficiency NEWS FLASH

(作成: SEAJ エネルギー効率利用専門委員会 独自の見解を含んでおり、内容を保証するものではありません。参考情報としてご利用下さい)

1) 件名

SEAJ・SEMI 合同会議から

2) 内容

『SEMI 台湾から要請で液体窒素の換算係数がほしい。』との事で液体窒素の換算係数を検討する事となり現状を確認した。台湾の事情として電力事情により、ゼロとしたい希望がある様だ。しかし、換算値は概算とはいえ適切な係数を設定する必要がある。

ここで、液体窒素に留まらず、半導体工場で使用する持込み材料についても調査した。

3) SEAJコメント

まず、液体窒素については、工場外で製造したものを搬入する方法、工場内で生成する2通りが考えられる。これらは使用量によって搬送を含んだエネルギーコストが反転する事が考えられるため、それぞれの換算係数を設定する必要があることが判った。

⇒ 2通りの換算係数の設定を提案したが、実際には消費量が膨大なため半導体工場内で生成しているとの事で1つの換算係数を使用する事となった様だ。

次に、現像液(TMAH)について現在では、『現地で希釈』は当たり前となっているが、当初は実際に使用する濃度のTMAHを運賃と容器に大きなエネルギー使用し、搬送していた。これを工場内での精密希釈を実現する事で搬送エネルギーを削減することができた。

⇒ ケミカルをどうマネージするかは、環境の大きな問題である。

4) 添付情報・資料

特になし

5) 関連情報

特になし

6) その他

特になし